

平成二十五年入学試験問題（前期日程）

小 論 文

法文学部 国際言語文化学科 ヨーロッパ文化専攻

注意事項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は、必ず解答用紙に記入すること。
- 三、解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
- 四、解答時間は、一五〇分である。
- 五、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

問 題

い。次は小原哲郎編の『学ぶということ』の、永井清彦「本を読むな」と題された章からの抜粋です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

非公開

非公開

非公開

非
公開

(小原哲郎編『学ぶということ』、永井清彦「本を読むな」、玉川大学出版部、一九九四年、七〇二七ページ、抜粋)

問 「考えること」、そのために「本を読むな」ということ、つまり考えることの意義とその方法に関する筆者のアプローチについて、あなたはどのように思いますか。筆者の主張に対するあなたの見解を、具体例を挙げて論を補強しながらまとめなさい。解答の全文は、一〇〇〇字以上、一二〇〇字以内でまとめなさい。

平成二五年度入学試験問題（前期日程）

小 論 文

法文学部 国際言語文化学科 ヨーロッパ文化専攻

出題の意図

この小論文の出題の意図は、「本を読むな」と題したエッセイを読ませ、筆者の真意が「考えること」にあること、そしてどうして「本を読むな」と言わしめるに至ったかをたどらせることにある。まずは、それが一般にも通じる見解であるかどうかを吟味させ、それに対し賛同するにせよ、反対するにせよ、いかに自身の見解を進展させ、説得力ある論を展開できるかをみることである。すなわち、「本を読むな」という挑発的な提言に対して賛成なり反対なり、いずれの場合にも自分の論を支持する論拠を明確に出せるか、それを論理的に展開できるかをみる。本専攻はそのアドミッション・ポリシーに「情報を整理・分析し、独自の論を展開する」能力という一項を挙げており、本課題はまさしくその方針に沿ったものである。問いの中で、特に具体例をあげて論を補強するよう注意を促したのは、より説得力ある論を展開してもらうためである。